

令和5年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	学びに向かう学級づくり		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆稲村 政憲(栃木東中) ・堀江 英里(東陽中)	・永井 良和(大平中央小) ・海老原 亜樹(栃木第五小)	事務所員 ・佐藤 奈央子 ・町田 知秋



3 研究テーマ

安心感のある学級づくりを目指した取組

4 研究の取組

(1) 研究内容

昨年度に引き続き、安心感のある学級づくりをすることが、学びに向かう学級をつくることにつながる
と考え、テーマを「安心感のある学級づくりを目指した取組」にした。

その際に、「学びにおける安心感とは何か」を話し合った。「学びにおける安心感」を児童生徒が得る
ためには、学級における所属感や自己有用感、心理的安全性を児童生徒がもてること、学級が受容的な環
境であることなどが必要であると考えられる。また、「自己決定の場」を積み上げていくことが心理的安
全性につながるという話が出た。そこで、それらをもとに各自が考えた取組を実践し、取組の共有、授業
研究を行っていく。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月11日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月6日	研究授業の協議・検討
6月27日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月1日	研究授業② 東陽中 (東陽中 堀江先生 2年学活)
9月19日	研究テーマ・内容の協議	2月8日	今年度のまとめ
11月10日	研究授業① 大平中央小 (大平中央小 永井先生 5年学活)	2月22日	2年次経過報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・学級目標を活用することで見通しをもった学級経営につながるが見えてきた。
 - ①学級目標の設定：子どもたちが自分事として学級目標を立てる。→5、6月などでもよい。
 - ②学級目標の変更：学級の状況に応じて学級目標を変えることも必要。
 - ③学級目標と個人の目標のリンク：学級の一員としての意識も高まる。
- ・自己決定の積み重ねにより、自己肯定感や安心感につながるということが見えてきた。
目標を設定し、達成することで称賛する機会が生まれ、自己肯定感が高まり安心感につながる。

【課題】

- ・学級目標を軸にした学級経営のためには、学年や学校全体で取り組む必要があるが難しい。
- ・目標が達成できないとマイナスにつながる可能性もあり、目標の難易度の適切な設定が必要。
- ・安心できる学級に向け、失敗してもよい雰囲気を作っていくためには、どうしていけばよいか。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- 意図的な学級目標の活用（設定の時期、振り返り、目標の見直し など）
特に設定は担任と児童生徒が学級の雰囲気や課題をふまえて設定できる時期にする。
- 自己決定を積み重ねる場の設定（学級目標の振り返り等）